あとがき　支援の事例を残していく

繰り返しになりますが、この国は災害大国。いずれ、また大きな災害がやってきます。その時のために、いろいろな支援事例を、ヒントとして残しておく必要があります。この本は、「次もこうやれ」というマニュアルではありません。あくまで、あなたが次に動き出すときのヒント集です。

「成功した支援事例」は、これからも使えるアイデアになる可能性があります。ひとつのNPOなどの中だけで受け継がれるのはもったいないことです。関係者の方は、ぜひ、広く事例を伝えてほしいと思います。忙しいとは思いますが、記録をつけ、発信する努力をしてほしいのです。

逆に、「失敗した支援事例」について残すことも大事です。支援に携わっている人は、「こんなに成功した」という話を強調するクセがあります。それには理由があって、成功した話をしないと、なかなか寄付が集まらないからです。でも、「失敗した支援事例」を残すのも大事です。同じような失敗をしないために、他の人が考えるための重要な材料になるからです。

この本には、筆者が取材したいくつかの支援事例を、できるだけコンパクトにまとめました。もちろん、この本に収められていないような事例やアイデアもたくさんあります。この書籍の元となった連載が掲載されていた雑誌『ソトコト』にも、たくさんの支援事例が掲載されています。ウェブ上にも、「FORTUNE宮城」「震災リゲイン」「復興アリーナ」といったウェブサイト上で、いくつかの事例が保存されています。

「支援訓練」のために、「支援研究」を行う人が増え、もっともっと支援の力がレベルアップする必要があります。みなさんも、支援する側の面白いアイデアなどがあれば、積極的に発信し、共有するなどの活動に参加してください。ささいなやりとりからも、既に支援訓練は始まっているのです。

手に取りやすくてシンプルな
防災の本をいくつか紹介します。
ぜひ、参考にしてみてください。

仮設暮らしのために

『仮設のトリセツ』主婦の友社
岩佐明彦（著）

備えるために

『地震イツモノート』木楽舎
地震イツモプロジェクト（編）

『防災かあさん』羽鳥書店
みんなの防災部（著）

火山について知るために

『もし富士山が噴火したら』
東洋経済新報社
鎌田浩毅・高せえり子（著）

津波と避難を考えるため

『みんなを守るいのちの授業』
NHK出版
片田敏孝・NHK取材班（著）

被災したときの制度を知るために

『災害のあと始末』エクスナレッジ
林春男（著）